

福井県衛生環境研究センター活動報告 概要

発表演題名	福井県におけるA群ロタウイルスの分子疫学的解析
発表学会名	第57回北陸信越薬剤師学術大会
発表者名	小和田和誠（保健衛生部）
開催場所	金沢大学宝町キャンパス（石川県金沢市）
発表日	令和7年2月23日～24日
発表内容	<p>A群ロタウイルス（RVA）は、主に小児の患者が多い胃腸炎ウイルスである。2011年にはワクチンの任意接種が始まり、2020年には定期接種が開始されるなど、近年は特にRVAの感染症予防対策が重要視されていることから、福井県におけるRVAの流行状況について、分子疫学的解析を実施した。</p> <p>2012年4月から2024年3月までの間に、福井県内で採取された検体の中で、RVAを検出した94検体を調査対象とした。RVAのVP4、VP6、VP7領域についてPCRを実施し、遺伝子型の同定を行った。</p> <p>VP7領域（G型）について、検体採取年別の最多検出数をみると、年ごとに異なる傾向が見られた。比較的マイナーであったG8は2018年以降に多くなっており、G8の患者年齢は他と比べて1歳から2歳の割合が低く、年齢分布がやや異なっていた。</p> <p>VP6領域（I型）については、2012年に検出されたGIではI2が多く、2016年ではIIが多かったことから、2012年と2016年は異なるタイプのRVAが流行した可能性が考えられた。また、VP7領域とVP4領域は同じであってもVP6領域は異なる組換え体が福井県内でも流行していたことが明らかとなった。</p> <p>今後もRVAは遺伝子型を変化させながら流行する可能性が考えられるため、引き続き、患者の発生状況やRVAの遺伝子型の動向を把握することは重要であると考ええる。</p>